
時空を超えた傭兵部隊

迅雷崩王

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時空を超えた傭兵部隊

【Nコード】

N9103V

【作者名】

迅雷崩王

【あらすじ】

この物語は1974年のカリブ海沿岸の洋上プラント通称マザーベースにいたMSF（国境なき軍隊）がある機械を拾ってしまい
2004年にタイムワープしてしまい
ドタバタを引き起こす
ドタバタ小説です

ブローグ

ここは1974年カリブ海沿岸
洋上プラント内の射撃訓練場

『スネーク、訓練はもういいのか?』

「ああ、それより外が騒がしいな」

『ああ、そのことなんだが』

「どうした」

『実は今さっきZ E K Eの破片を持ったパスが見つかったんだ』

「本当か」

『ああ、いうのを忘れてた』

「それで怪我はどうだ」

『問題ない』

「そうかよかった」

「それとなスネークまた依頼だ』

「何処からだ」

『ああ、それがな、コスタリカの沿岸に地雷みたいな装置があって
動けないらしいから何か調べてほしいそうだ』

「俺にか?」

『そうだ』

「分かった今したくする」

そしてスネークは銃の整備をやめ依頼に向かった

第2話 奇妙な装置（前書き）

皆さんこんばんは

神雷鳳凰です

お久しぶりです

さて今回はある装置についてのお話です
ではどうぞ

第2話 奇妙な装置

「カズ！ただいま到着した」

『了解したスネーク』

「それで俺はどこに向かえばいい」

『その先の海岸だ、もしクレイモア地雷だったら気を付けて回収しろ』

「分かった」

そしてスネークは海岸付近に到着した

「これか」

その機械はなんかZ E K EのAIポットをスゴク小さくした形の機械だった

「カズ、機械を発見した」

『了解だスネーク、帰投してくれ』

「分かった」

そうスネークがつぶやくとカバンからフルトン回収装置を取り出して足に引っ掛けて

ヘリに拾ってもらい、マザーベースに戻った

「スネーク、それでなんだその機械は」

「分からない、ヒューイはどうだ」

「これは僕もよくわからないよ」

「ストレンジラブ博士ならわかるかもよ」

「そうだなチコの言うとおりだな」

「僕も一樣調べてみるよ」
「分かった、カズ、模擬戦を開始したい、準備頼む」
「分かった、じゃあ上に出てくれ」
「了解」

そして模擬戦が終わり――

「分かったぞ」
「その機械の意味は」
「これは時空転移マシンだ」
「時空転移マシン？」
「早くいうとタイムマシンみたいなものだ」
「じゃあそれを使えば」
「それはそうだが」
「カズ、お前はそのマシンを使ってどうするつもりだ」
「何もしないさスネーク」
「ならいいが」
その時カズが持っていた機械を落としてしまったのだ

刹那すさまじい光がマザーベースを包み込み見たこともない予知に
たどりついてしまったのだ

T O B E C O N T I N U E D N E X T M I S S I O N

第3話 未来の東京

ここは1974年カリブ海沿岸

ココにはかつて世界を書くから救った男の洋上プラントが存在した場所

しかし今はなぜか姿を消した

そして時はたち2004年東京都

「おいカズ！ストレンジラブ！ヒューイ！大丈夫か」

「ああ、スネークお前は」

「ダンボールに入ってたからな、無事だ」

「お前は本当にダンボールが好きだな」

「ああ、潜入には欠かせないからな」

「それにしてもここはどこなんだい？」

「見たことない建物や飛行機があるな」

「カズ！ガンシップを用意しろ！偵察してくる」

「分かった、MI-24Aを用意させる」

「分かった、FIM-43を用意してくれ」

「分かったガンシップに積んでおく」

そして偵察に出発した

「ここはどこなんだ」

「ここはどうやら日本みたいですなB O S S」

「分かったがあの建物はなんだ」

「城？ でしょうか」

刹那――

ズゴーーーーーー

「何だ!!」

「大変ですボス！ 攻撃を受けた模様です」

「分かったスタンロットとハツシユパピーをくれ」

「了解です、バックパックに入れておきます」

「降下開始」

「了解！ ハッチオープン」

S i d e ???

「おいハヤテ！ なんなのだよの1970年代のへりみたいなのは」

「そういわれればレトロなガンシップですね、自衛隊かなんかでしょうか」

「自衛隊なら迷彩柄だろう」

「そうですね一度お屋敷に戻って報告してみましよう」

「SP部隊は攻撃を開始しろ」

「ハッ!」

side out

「誰だあれは」

「撃てえ!!!」

バゴーーーーー

「こんなのT-72Uの砲撃に比べたら屁でもない」
「聞いてないだと」

「喰らえ、FIM-43」

ピッピッピッピッピッピッ
ビューーーーーン

「ズゴーーーーーッ」

「ん？誰か凄いジャンプでこっちに来るな！スタンロツト」
「なんの！ハアアアアアアア」

「そして2人とも攻撃を喰らい地面へ落ちて行った

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9103v/>

時空を超えた傭兵部隊

2011年10月9日09時48分発行